

8-4-20 鉄道専門委員会

に協力していく。

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会の開催回数：9回

(通常開催2回、WEB会議5回、
メール配信2回)

(2) 「品質セミナー」のためのエラー事例の収集と分析を実施。昨年に引き続き、委員出身各社からエラー事例を収集し整理した。昨年までの154例に13例を追加し167例とした。

当委員会は品質セミナーへの参加は隔年のため、本年度は不参加。来年度参加予定。

(3) RCCM教材の改訂

RCCM 自主学習システム教材の改訂は、誤字脱字、章立てのルールなど軽微な変更を行った。

同時に演習問題については、章毎の問題数のバランスに配慮し、新規問題の追加および削除を行った。

(4) 「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」(改訂第11版)に関する改訂および普及活動

「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」(改訂第11版 第2版)について、発注機関等からの問合せにより計18部を配布した。また、建コンの一般用ホームページに掲載している正誤表についても、必要に応じて随時、更新している。

(5) 「報酬積算の手引き」(改訂第11版)に関する質疑対応

「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」((一社) 建設コンサルタンツ協会 改訂第11版) に対する質疑について対応した。

質疑件数は、15件であった。

(6) 独立行政法人 鉄道・運輸機構との協議

独立行政法人 鉄道・運輸機構と設計歩掛に関する意見交換を行った。歩掛実態調査等を実施し、受発注者双方納得できる改訂が行われた。また、継続審議が必要な課題については、必要に応じて実態調査も含めた対応を行い、前向き

2. 次年度の活動について

次年度の活動としては、昨年度コロナの影響で開催できなかった「鉄道セミナー」開催を実施する予定である。エラー事例の収集と分析及び品質セミナーWGの参加、RCCMの自主学習システム教材改訂、「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」(第11版)の普及を実施する。加えて、内容の見直しを行い小改訂することを考えている。

また、鉄道・運輸機構に対しては、意見や要望を提示し意見交換会の開催を予定している。

その他、鉄道総合技術研究所や鉄道・運輸機構の窓口として、技術標準の改定に伴う資料の収集と展開などの役目を果していく。

(鉄道専門委員会委員長 横田 昌也)